ポム・ド・パン

2022.11
Vol.37

障害者支援施設ウインドヒル 〒761-0450 香川県高松市三谷町3851番地 TEL 050(3734)6707 FAX 087(888)4278
グループホーム風見の家 〒761-0450 香川県高松市三谷町3890番地1 TEL・FAX 087(888)2557 管理者 松原 正子

発　行／社会福祉法人ポム・ド・パン
発行日／2022年11月1日

避難訓練

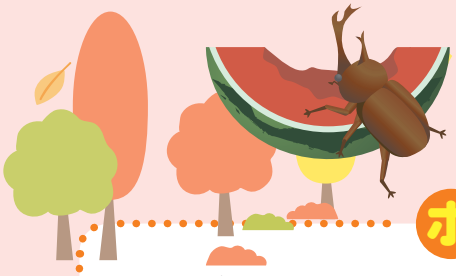
毎月防災意識を高める為、災害・水害・地震などを想定し、避難訓練を行っています。毎回、予告せずに放送を利用して「〇〇から火災発生しました」のアナウンスで、利用者も慌てず避難出来ています。誘導時も職員の声掛けをよく聞き、避難場所へ移動し、落ち着いて座って待つことが出来ます。「座る・待つ・聞く」は法人の療育目標です。

P4 へ

カブトムシの幼虫

施設にある、針葉樹の落ち葉・伐採した木・粉砕した竹を積み上げている場所で、偶然沢山のカブトムシの幼虫を見つけました。全ては採りきれませんでしたが、大きな飼育ケースに入れ、大事に成虫まで羽化させました。おそらく昨年知らぬ間に産卵していたのでしょう。

P6 へ



ポム・ド・パンの理念

・障害があっても、誰からも愛される人に成長できるように、丁寧に寄り添って関わります。
・障害があっても、正しいことを根気よく伝えることにより、何歳になっても成長することを信じます。
・障害があっても、できることが増えるように、様々なことを獲得できるように、一貫性をもって、継続して支援します。
・障害があっても、その方の得意なことを、大好きなことを見つけ、これを通して、生活基盤を作ります。

「虐待防止」に関する取り組み

今回は「虐待防止」に関する取り組みが今年度より、義務化されたことについて少し触れさせていただきます。

「障害者虐待防止法」という法律がございます。ご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、目的は「障害者の権利及び利益の擁護」です。法律の概要につきましたは後程紹介いたします。

その「障害者虐待防止法」に記されている取り組みが、令和４年４月より、障害者虐待防止の更なる推進の為、障害者福祉サービス等事業所等において完全義務化されています。（令和３年度までは努力義務でした）

その取り組みは次の通りです。

①従業者への虐待防止研修実施
②虐待防止のための対策を検討する委員会として「虐待防止委員会」を設置し、委員会での検討結果を従業者に周知徹底する。
③虐待防止等の為の責任者の設置。

虐待防止委員の役割は虐待の未然防止や虐待事案発生時の検証・再発防止等の検討です。

ウインドヒルにおいては管理者を委員長（責任者）として令和４年３月には虐待防止委員会を設置しました。定期的に委員会を開催し、現場より上がってくる情報を基に対策を検討しています。今年度の職員研修につきましても虐待防止を重点に置いて実施しております。

外部より講師をお迎えしたり、施設内での OJT、ロールプレイを通じて意見を出し合い、共通の理解となるよう支援の資質向上に向け、日々努力することに努めています。

トピックス① なわとび

輪になってみんなで縄跳び。

トピックス② クリスマス飾り

クリスマス用の飾りを作りました。
色とりどりの広告がアクセントですね。

トピックス④ 利用者作品2

気持ちよさそうに生き生きと泳いでますね。
カメ？イルカ？何？何？

トピックス③ 利用者作品１

今にも動きだしそうな、何とも言えない味わいですね。ほっこりしますね。

虐待防止法の概要

平成 24 年 10 月から、障害者虐待防止法が始まりました。
法の目的は、障害者の権利及び利益の擁護です。

目　的　法の名称「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」

障害者に対する虐待が障害者の尊厳を害するものであり、障害者の自立及び社会参加にとって障害者に対する虐待を防止することが極めて重要であること等に鑑み、障害者に対する虐待の禁止、国等の責務、障害者虐待を受けた障害者に対する保護及び自立の支援のための措置、養護者に対する支援のための措置等を定めることにより、障害者虐待の防止、養護者に対する支援等に関する施策を促進し、もって障害者の権利利益の擁護に資することを目的とする。

定　義

1「障害者」とは、身体・知的・精神障害その他の心身の機能の障害がある者であって、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活・社会生活に相当な制限を受ける状態にあるものをいう。
2「障害者虐待」とは、次の３つをいう。
①養護者による障害者虐待
②障害者福祉施設従事者等による障害者虐待
③使用者による障害者虐待
3 障害者虐待の類型は、次の５つ。
① 身体的虐待（障害者の身体に外傷が生じ、若しくは生じるおそれのある暴行を加え、又は正当な理由なく障害者の身体を拘束すること）
②放棄・放置（障害者を衰弱させるような著しい減食又は長時間の放置等による①③④の行為と同様の行為の放置等）
③心理的虐待（障害者に対する著しい暴言又は著しく拒絶的な対応その他の障害者に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと）
④性的虐待（障害者にわいせつな行為をすること又は障害者をしてわいせつな行為をさせること）
⑤経済的虐待（障害者から不当に財産上の利益を得ること）

なん人もいかなる理由があろうとも障害者に対し、虐待をしてはならないと規定されています。

しかし法律が始まった後も深刻な虐待事案が起きています。ご承知の通り平成 28 年に相模原市の障害者支援施設において発生した利用者への殺傷事件は、史上稀にみる大惨事となり、全国の障害当事者や家族、支援する関係者等に計り知れない悲しみと衝撃をもたらしました。また令和に入っても痛ましい事件が数多く報道されています。その殆どが、施設従業者によるものです。同じ障害者支援施設と従事する者として、大変ショックなことです。地域社会における障害理解の一層の促進を、国をあげて図っていくことの必要性が改めて浮き彫りとなっていると思います。

障害者虐待を防止するためには、職員個人の「がんばり」に任せるのではなく、設置者、管理者が先頭に立って、施設・事業所が組織として取り組むことが必要と考えます。その基本は、研修等を通じた職員の利用者に対する支援の質の向上と、職員同士がお互いを支え合い、指摘し合え、自由に意見が言い合える風通しのいい組織づくり、実習生の積極的な受け入れや苦情解決・第三者委員等による外部の目の導入、虐待を隠さない、嘘をつかない誠実な施設・事業所の運営等です。そのような施設を目指し、ウインドヒルでは日々利用者に寄り添い、安心安全の為に施設運営をして参ります。

厚生労働省発行　「障害者福祉施設、障害福祉サービス事業所における障害者虐待防止法の理解と対応」
社会福祉法人　全国社会福祉協議会　「障害保健福祉施策への取り組み」より抜粋

お楽しみ運動会 9月22日(木)

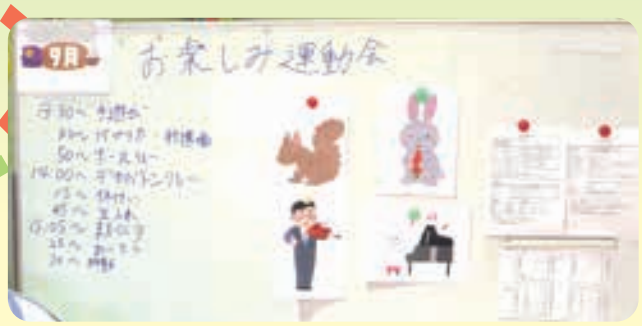
各種目ごとに利用者の笑顔がみられ一生懸命に身体を動かしながら取組む姿は印象的でした。また活動ごとに座って、待つことが出来ており、利用者の成長を感じました。

生活支援員　道倉　寛史

利用者さん全員が交流棟に集合してのお楽しみ運動会、ピンクポロシャツを着て、ユニット別に並ぶと、目を輝かせ、やる気が感じられました。

とくに、最後の競技「玉入れ」では、たくさんの玉を拾っていっぺんに投げる人、一つずつ拾い、かごをねらってなげる人とさまざまで、終わりの合図が鳴るまで一生懸命投げる姿が印象的でした。コロナ禍で利用者さんと職員のみの運動会でしたが、この頑張りをいろんな人に見てもらえるそんな日が来るのが待ち遠しいです。

生活支援員　加藤　理江



沢山の笑顔と声援がいっぱいの運動会でした。皆さん職員のお手本や前の利用者さんをよく見て競技が出来たり、玉入れでは、どのユニットも接戦で応援にも熱が入りました。競技の際の真剣な表情。終わって少しホッとした様子。職員も利用者さんと共に充実した時間を過ごす事が出来ました。

生活支援員　石田　恵美

迷い犬

ある日突然その訪問者は現れました。それは哀愁漂う一匹の老犬でした。

首輪をつけていて、どこかの飼い犬のようです。空腹だったのか、玄関に置いてあった金魚の餌のフレークをケースごと噛みつき、完食しました。

その後、玄関前に陣取り、中に入りたそうにガラス越しに覗いたりしていました。

一晩施設で過ごし、このまま施設の仲間入りになるのかなあと思っていたところ、どこかから聞きつけた飼い主が現れ、一緒に帰っていきました。

名前は「淳」君だそうです。一晩でしたが、いなくなると寂しいですね。またふらっと現れないかなあと思う今日この頃です。

職員研修

7月11日、8月22日　講師　鎌田泰明氏

7月11日、8月22日　国家資格である社会福祉士の資格を持つ主任生活支援員　鎌田職員を講師に、強度行動障害支援者研修を2回に分けて実施いたしました。
今回のテーマは「強度行動障害のある人の「暮らし」を支える」で、研修用のDVDを全員で視聴し、DVD内の事例を基に、行動背景の特性、支援のアイデアなどをグループごとに考え、ロールプレイを実施し、互いに意見を出し合い、支援の手順書を作っていきます。
生まれつき強度行動障害のある人はいません。強度行動障害が特性と環境とのミスマッチで起こっているのであれば、その環境が本人に合っていないということです。強度行動障害の人は、「困った人」ではなく、「困っている人」です。問題行動は本人からのメッセージであり、何を訴えているかを考え、理解や配慮によって軽減も可能であり、ならないようにもできます。大事なことは利用者それぞれの特性を理解する事で、利用者が伝えたいことを読み取り、個々に合った支援方法を模索するべきであることは今回の研修で理解できたと思います。

8月29日　講師　宗澤忠雄氏

8月29日 日本障害者虐待研究研修センター　宗澤忠雄氏を講師にお迎えし、「施設従事者による障害者への虐待への対応と取り組み」というテーマで講義をしていただきました。宗澤先生は長年、埼玉大学教育学部で教鞭を執る傍ら、さいたま市社会福祉審議会会長や障害者施策推進協議会会長等を務めた経歴をお持ちです。また埼玉県内の市町村障害者計画・障害福祉計画の策定・管理等に取り組んでこられました。障害者福祉のスペシャリストと呼ばれる方にご自身の経験、統計データを基に様々なお話をしていただきました。
先生にはまた是非高松へお越しいただき、他の色んな話を聞いてみたいと思わせて頂ける貴重であり、有意義な時間でした。先生のおっしゃられた「自閉症の人を支援することによって、支え返される仕事、やりがいのある職場にならなければいけない」との言葉は、今後のウインドヒルに向けてのエールと受け取りました。
宗澤先生のブログ
https://www.caresapo.jp/senmon/blog-munesawa
＊9/5のブログにウインドヒルについて少し触れられてます。

9月12日　講師　三原憲二氏

9月12日　社会福祉法人　あかりの家　元施設長　三原憲二氏を講師に迎え、「チームと専門性について　～現場に即して考えてみる～」をテーマに施設全体としてより高い目標をもって支援する必要性を「自閉症の方を支援することはどういうことなのか」「職員としてどうあるべきか」をご自身の経験を基に講義していただきました。
職員をチームと考え、一人一人の職員が支援のプロとしての意識を持ち、個々の持ち合わている能力を補完し合い、育て合い、チームとして更に成長していく。利用者の拘りを「特性」で片づけるのではなく、支援者（職員）が怠った結果で起こる拘りもあることは勉強になりました。如何に支援者が障害のある方に寄り添い、一人の人間として接することが大事なことかを改めて思いました。先生のおっしゃっていた「面白がって仕事をする」ことの意味は楽しむのではなく、面白く感じてることを態度で表すことで、周りの人を引き込み、明るく楽しい職場にすることです。そういう施設でありたいと強く思いました。

消化器演習

6月24日　四国アラーム　福岡氏を講師に迎え、消火器の訓練を実施しました。未経験の職員を中心に消火時の消火器本体の持ち方から、放水の仕方等を習いました。意外と簡単で、慣れれば誰でも出来ると思いました。でも使うことが無いのが一番です。継続は力なり。

避難訓練

9月30日　高松南消防署立会の元、避難訓練を実施致しました。夜間を想定し、利用者の安全を最優先した避難誘導を実施した結果、消防署立会担当者よりゆっくりではありますが、冷静に避難できていて、待機場所でもじっと座って待つことが出来ていることに関してお褒めの言葉を頂きました。ただ、避難誘導する職員の連携の声掛けであったり、避難の順番であったり、誘導に時間がかかったりと、課題も多い内容でした。今回は実働隊員の方が立ち合いに来られたので、実際の火災時のアドバイスを頂き、今後の訓練の際の改善すべきことを学ぶことが出来ました。

遠足 R4年10月7日(金)

当日は雨が降っており、芝広場での活動が出来ず、傘さしでのウォーキングになりました。途中、高松空港から出発した飛行機が飛び立つのを見て感動したのではないかと思います。また機会があれば、天気の良い日に行きたいと思います。

人材育成主任　松尾　能之

当日はあいにくの空模様でしたが、元気に、上手に傘をさしたり、合羽を着て歩きました。日々の健脚の積み重ねの成果だと思います。また飛行機を嬉しそうに眺める利用者の方もいらっしゃいました。近くで見られるご当地ならではの魅力を感じてくれたようでした。

天気が良ければ芝生スペースで大の字に寝転んだり、ボール遊びを楽しんだりできたのですが、残念ながら雨天の為できませんでした。次の機会があればぜひ利用者の皆さんと楽しんでみたいです。

生活支援員　木村　豊

午前中降っていた雨も上がり、涼しい中楽しく散策することができました。利用者の皆さんもバスでルンルン気分、いざ公園に到着すると広々とした風景に笑顔も見える中、轟音を轟かせながら飛行機が飛び立ちました。中には驚く利用者の方もいましたが、ほとんどの方が喜んで見ていました。コスモスの花が綺麗に咲いた遊歩道を歩き、楽しい一日を過ごす事が出来ました。

生活支援員　清田　光成

10月7日、午前と午後に分かれて空港公園に遠足に行きました。午前中は療育グループが空港公園のアドベンチャーゾーンに行きました。天気が悪かったですが広い園内と芝生公園を中心に散策しました。午後は飛行機の滑走路のすぐ横のスカイゾーンに行きました。飛行機の離陸を見たり、コスモス畑の中を散策しました。2グループともに現地ではまとまって歩くことができ、また公共のトイレも汚さず使用できていました。私達職員は、日頃のウォーキングやトイレでの支援がこのような場でいかされているとうれしく思いました。今後いろいろな企画を計画し、利用の方と一緒に楽しんで参加したいと思います。

主任生活支援　鎌田　泰明

空港公園のアドベンチャーゾーンへ、遠足に行ってきました。あいにくの雨模様でしたが、利用者同士の傘・合羽を使用し足元に気をつけながら散策をしました。離発着する飛行機も見ることもでき、見えなくなるまで眺めていました。

バスの中では。季節の歌「紅葉」を手拍子をつけて歌ったり、「森の音楽家」の歌詞に手の動きをつけて手遊びをしたり、有意義な時間を過ごしました。

また晴れた日に、自然の中をゆっくり歩き、芝生全体で体を動かせる機会を楽しみにしたいと思います。

生活支援員　上原　雅子

楽しみにしていた遠足。当日の天気は雨……。出発時間が近づき、雨も小雨になってきたので、出発することに。場所は空港公園のアドベンチャーゾーンへ行きました。到着時、雲の合間から、飛行機を見ることができました。すぐ雲の中に消えてしまった飛行機に少し淋しさを感じながら、バスを降りて、スムーズにトイレ誘導も終わり、散策開始。雨は止まず、雨宿りしながら、ゆっくり歩いてお散歩をしました。空港に着陸する飛行機を見て笑顔になった利用者さん。雨に濡れても楽しさを行動で表現する利用者さん。まだ歩きたそうにする利用者さん。色んな笑顔に癒やされました。最後帰るときは、みんなで手を振ってお別れしました。次来るときは晴れでありますように……。

生活支援員　新藤　沙也香

遠足で空港公園に行きました。皆の願いが届いたのか午前中降っていた雨も午後にはみごとに止みました。飛行機のジェット音に驚いたり、遊歩道にさきほこるコスモスの花に季節を感じたりと様々な経験をする事ができました。

生活支援員　安部　晶子

トピックス⑤ DVDケース抜き作業

新しい作業(2022年4月～開始)もすっかり慣れ、手際よくこなしています。

地域とのつながり

三谷八幡宮秋祭り

10月9日（日）三谷八幡宮秋祭りに出店いたしました。雨天にも関わらず地域の方々の思いが届き秋祭りを決行しました。

天狗の衣装がっとても立派で感動しました。獅子舞の奉納は賑やかな光景があり参拝者さんが楽しんでました。獅子に頭を噛んでもらうと一年間無事で過ごせると言われ参拝者の皆さん、噛んでいただいていました。

春祭りと同様にコロナ対策の中での開催なので飲食関係の出店は少なかったです。ウインドヒルからは保護者、職員からの不休品を提供してもらい、その上、利用者さんが作ったエコポット、竹炭、コースターを出店しました。参拝者の皆さんがウインドヒルの出店を手に取り楽しく選んでいる姿を見て私たち職員も一緒になって笑顔に嬉しくなりました。

これからも地域との繋がり、ふれあいを大切にしていきたいです。

主任生活委員　松田　仁美

人権・同和教育研修依頼を受けて

高松市立三渓小学校様より依頼を受け、講演に伺いました。宮武紀子校長より下記のお礼のコメントを頂きました。

家庭環境が多様化する中、日々子どもたちに向き合う我々教師にとって、子ども理解の基づいた支援の追求は必要不可欠です。ご自身の経験に基づいた、松原先生の支援理論は、我々の心に響き、「『寄り添う支援』とはどうあるべきものなのか」ということについて、深く学び、考える機会となりました。今後も先生のご指導を賜りながら、教師としての力量を高めて参りたいと思います。貴重なご指導を賜り、誠に有難うございました。

管理者　松原　正子

大好評

今年施設で羽化しましたカブトムシを三谷コミュニティに置かせていただき販売致しました。幼虫の段階であまり大きくならずに蛹化した為、羽化してきた成虫も小ぶりでした。その為、値段設定も安めにしてしてたのが功を奏したのか、次々に売れていきました。次の入荷はいつになりますかとの問い合わせも頂きました。

今は来年用の為に、採卵し、孵化してきた幼虫を大きくするために土交換等の環境を整えてる最中です。

来年は数を増やし、販路も広げればと考えています。カブトムシ小屋の整備も計画中です。

事務員　小谷　一良

新しい職員

①趣味　②自分を動物に例えると
③利用者とのエピソード　④フリートーク

橋本　真紀（R4. 6月入社）

①ガーデニング
②ネコ（寒いのが苦手でコタツ等、暖かい場所が落ち着くので）
③勤務数日目に利用者の方から初めて名前を呼ばれた時の何とも言えない嬉しい気持ちは今でも忘れられません。
④まだまだ未熟な私ですが、1つ1つ経験を積み、勉強させてもらいながら、利用者とよりよい関係を築いていけたらと思います。

向井　秀樹（R4. 8月入社）

①カラオケとか食べ歩き
②カピパラ
③利用者さんに積極的に声かけをして明るい雰囲気をつくりたい
④最近パチンコにはまっている。

溝口　　孝（R4.10月入社）

①14、5年間家庭菜園をしていましたが、今は無趣味。
②若い頃は虎（タイガー）でしたが今は猫
③利用者さんの皆さんを暖かく、笑顔で見守っていく事。
④小林正観著の中で明るければ、どんなことも乗り越えられる「ありがとう」と云う言葉「そ、わ、か」掃除、笑い、感謝、それを実践していくことが「やわらかいこころ」になると書かれていた。好きな言葉です。

宮武　秀樹（R4.10月入社）

①旅行　映画、演劇などの鑑賞　ゴルフ
②馬（好きだからです。）
③初対面でも挨拶してくれた方がいてうれしかったです。これからは利用者皆さんそれぞれの個性を理解し、配慮をもってコミュニケーションを図っていきたいと思います。
④最近、運動不足なので愛犬とウォーキングコースのある山に登っています。これからの季節、皆様も気分転換に、鳥のさえずりや紅葉をもとめて出かけてみてはいかがですか。

寄　付

①三和電業株式会社　高松支店
社員一同様より

毎年、職員一人一人の善意の気持ちを結集してご寄付を頂きました。ありがとうございます。

②社会福祉法人　高知小鳩会
障害者支援施設　あじさい園様より

コロナ陽性者が出た際に、「がんばれ　ウインドヒル」のメッセージ入りの防護服300着、医療用マスク1,000枚をご寄付頂きました。大切に使わせていただきます。

社会福祉法人ポム･ド･パン後援会会員

敬称略・順不同

●令和４年度個人会員　令和4年6月1日～令和4年10月10日

近藤　　勝　池下　律子　吉村　繁三郎　吉村　和子　猪塚　正章　藤田　美佐緒　冨田　トエ　磯部　康子
計野　浩一郎　細井　千秋　大藤　久志　大藤　忍　大矢　三千代

令和４年６月１日～令和４年10月10日現在、以上の方々に継続及び新規にご入会頂きました。
令和４年10月11日以降にご入会の方々は、次回の会報にのお名前を掲載させて頂きます。
本当にありがとうございます。

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会のご案内

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会は、当法人が運営する障害者支援施設「ウインドヒル」をサポートしています。

今後長期にわたり、利用者一人ひとりを大切にした理想的な療育を行い、施設の整備を継続的に発展させてゆくには、より多くの方々のご支援を必要としております。

何卒、私達の趣旨をご理解いただき「社会福祉法人ポム･ド･パン後援会」にご入会下さいますようにお願い申し上げます。

なお、すでに会員の方には毎年年度初め４月１日付で継続お願いのご案内と振込用紙を送付しております。よろしくお願いいたします。

[年　会　費] 個人会員　一口 3,000 円　　団体会員　一口 10,000 円

[ご入金方法] 郵便振替　**口座番号 01690-3-74305　口座名称 社会福祉法人ポム・ド・パン後援会**

あたたかいご支援、本当にありがとうございました

社会福祉法人ポム・ド・パンのホームページです。
当法人からのお知らせやウインドヒルでの取り組みなどを随時更新していますので、是非ご覧ください。スマートホンでは、右の QR コードから読み取れます。
アドレス：http://www.pomme-de-pin.or.jp/

社会福祉法人ポム･ド･パン

編 集 後 記

松ぼっくりのポムです。

編集者の私が入職して１年と少し経ちました、福祉とは全く関係ない職種で30数年働いてきて最初は戸惑う事ばかりでした。しかし、仕事をする上で大切なことは、何処にいても、誰といても、どのような立場でも、どんなに経験を積んでも変わることがないと改めて気づかせてくれた日々を過ごしてきたと思います。皆さんは仕事をするときに、何を大切にされていますか。因みに私は誠実です。

松ぼっくりのパンです。